会議結果報告書

| | |
|---|---|
| 1　会議名 | ごみ処理に関する課題についての意見交換会（汐見台自治会） |
| 2　日時 | 平成 30 年 6 月 16 日（土）9：30～10：30 |
| 3　場所 | 汐見台小学校 |
| 4　出席者 | （資源循環課）森岡副主査、下舞主任<br>（環境事業センター）小川所長補佐、和田主事、和田技能労務員<br>（汐見台自治会）参加人数：24 人 |
| 5　内容 | 本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。<br><br>●市の方向性を確認したい。どのように進む予定なのか。<br>→方向性は、まだ決まっていない。今年度中に意見をとりまとめ、来年度中に方針を決定する予定である。<br><br>●別紙２の平成３０年度の予算編成について、環境部の予算配分を増やすことは考えていないのか。<br>→予算を要求すること自体は可能だが、資料で示した予算についても、厳しい財政状況を背景として、何千の数多く要求される事業の中から、優先的に取り組む事業を基に構成されているものである。<br><br>●有料化の話は分かったが、戸別収集のイメージは、郵便配達が家まで郵便物を届けるように、家までごみを収集しに来るということでよいのか。<br>→戸建てについては、そのイメージとなる。集合住宅は今まで通りの集積場所で収集することを考えている。<br><br>●市税の徴収方法が稚拙である。企業をもっと誘致して法人税等の税収を上げることなど、収入を増やす必要があるのではないか。また、予算の話をするのであれば他の部局も呼んで欲しい。ごみだけの問題ではない。<br>→貴重な意見として承る。<br><br>●予算要求はどの程度通るものなのか。生活困難者への対応はどのように考えているのか。<br>→厳しい財政状況であるため新規の事業については、非常に通りにくい状況である。ごみの有料化に関しては、子育て世帯や生活困難者に配慮することも考えている。<br><br>●ごみ処理経費を有料化で全て賄うつもりなのか。<br>→ごみ処理経費の一部を負担してもらうことを考えている。最終処分場を新たに建設することは非常に難しいため、焼却灰の全量資源化が必要になってくる。焼却灰は 1 |

| | |
|---|---|
| | 年間でおよそ 8,000 トン排出されている。全量資源化には 1 トンあたり 50,000 円かかるので、1 年間で約 4 億円かかる試算となる。<br><br>●戸別収集の際にカラス対策はどうなるのか。<br>→戸別に対応してもらう必要がある。<br><br>●「厨芥類」の表示を分かりやすく「生ごみ」にしてほしい。<br>→貴重な意見として承る。<br><br>●将来はどのようになっていく予定か。市の考えを聞きたい。<br>→ごみは全国共通の問題であり、市としてはごみを減量していきたい。しかし、有料化ありきの話ではない。ごみを減量化することを目的として、有料化の検討をしている状況である。<br><br>以上 |